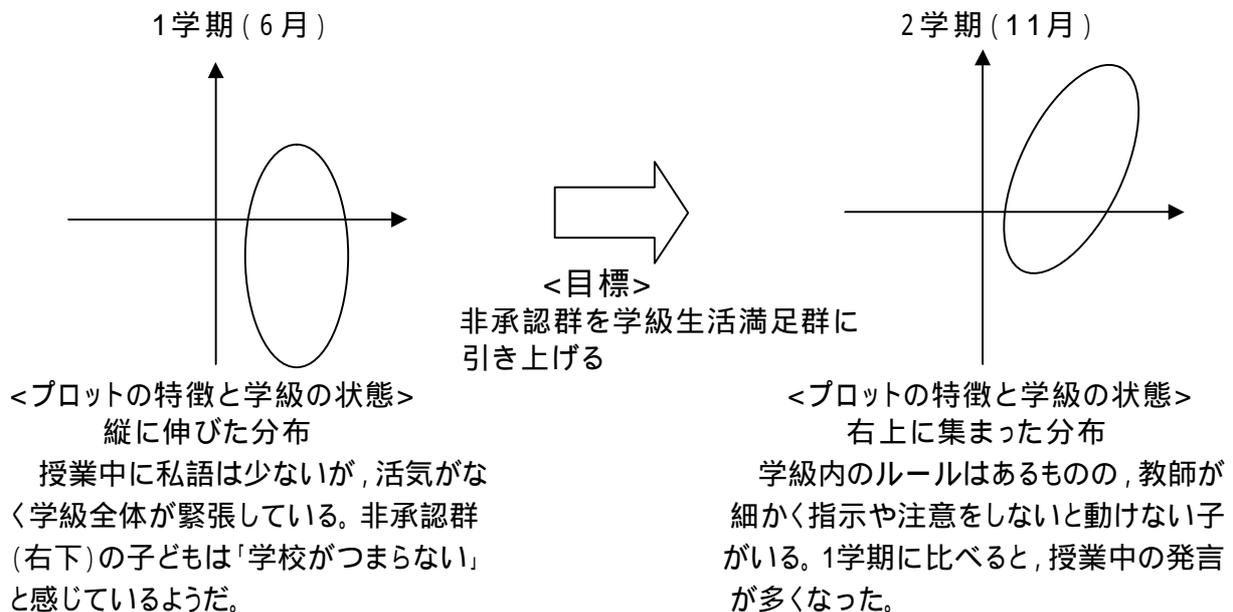


## 学級づくりのためのQ - U活用法 ～2回目の実施後の手立て～

Q-Uを効果的に活用するためには

Q-Uの実施 学級集団の状態の把握 実践・対応 Q-Uの実施 評価・検討  
という流れが有効です。2回目を実施したら1学期からの取り組みの効果を「再検討」してみましょう。

### 1 1学期の結果と2学期の結果を比べてみる



### 2 目標を達成するために取り組んだ内容をまとめる

#### 担任教師のリーダーシップの取り方

非承認群の子どもを中心に日頃から声をかけ、できるようになったことやがんばっていることについて、学級全体で認めるようにした。

#### 授業の進め方

子どもの発表を最後までうなずきながら聞き、正答だけでなく誤答にも良さを見つけるようにした。

#### 朝の時間

登校する子どもたちを教室で迎えるよう心がけ、あいさつとひとこと会話をかわすようにした。

#### 給食の時間

子どもたちと一緒に輪になって食べる。一日ずつ班ごとに回り、他愛のない話をしてクラスの雰囲気を和らげた。

### 3 学級集団の状態から、対応策が有効であったか検証する

～良好ならば、継続しながらさらに深める取り組みを、  
効果がみえなければ、方法の再検討を～

非承認群の下の位置にいたAさんが、担任に自分から話しかけてくるようになり、笑顔も増えた。

給食の時間に笑い声が多くなった。あまり声を聞いたことのなかったBさんが給食の時には班の友だちと話ができるようになった。

登校した時に普段と様子の違うCくとすぐに個別に話をして、Cくんがいじめを受けていることがわかり、迅速な対応できた。

<良い変化>

<今よりもよくしたいこと>

子ども同士のかかわりがもっと持てるような工夫をしたい。

まだ、「自分が思っていることを安心して話せる。失敗しても許される」という雰囲気は十分ではない。

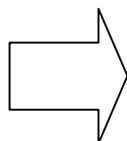
### 4 うまくいっていない取り組みについて再検討する ～検討する際の留意点～

目的を明確にする……………いつまでにどうしたいのか  
具体的な状況を知る……………どのような対応をした時にどんな反応だったのか  
教師と子どもの認知の違いを知る……………子どもの受けとめ方がどうなのか考える  
具体的にできるものを考える……………抽象的なことや精神論を避ける  
行事や時間割も考慮して実現可能なことを考える

### 5 さいごに

Q-Uを実施し活用した学級経営をしているA先生と、実施しても活用していない学級経営をしているB先生。

そのちがいは



いじめや不登校のサインを事前にキャッチし予防開発的な対応ができるか、問題が起こってからの手後の対応になるかです。